

主 内 容

会長挨拶	1面
震災とこれからの日本	2面
葛歯連盟広報によせて	2面
おーい、みんな大丈夫かー！	3面
震災とこれからの葛飾	3面
震災対応を考える	4面



葛歯連盟広報

発行所

葛飾区歯科医師連盟

東京都葛飾区青戸7-1-20

電話 03(3602) 0648・(3603) 2691

編集発行人 加藤静悟

印刷所 一世印刷株式会社

「3・11日本国を挙げての復興支援と24年度診療報酬改定」

葛飾区歯科医師連盟 会長 加藤 静 悟



会員の先生方には、日頃連盟の活動にご協力を賜り深く感謝申し上げます。

4月10日の東京都知事選挙では、先生方のお力で、ご家族、スタッフの方々の絶大なご協力が得られ、現職都知事の当選を勝ち取ることができました。ありがとうございました。

また第65回総会にて、続投をお許し頂き、さらに各支部会から新進気鋭の先生方を推薦され、非常に頼もしい組織をスタートさせる事が、出来ました。

当連盟は今年度、東京都歯科医師連盟江東七地区連合会（向島、足立、葛飾、江戸川、城東、本所、深川）の当番地区に当たするため、役員の先生方の出張回数が増えますことをお詫びしなければなりません。宜しくお願い致します。

6月に入り、3月11日の未曾有の天災への対応の悪さをネタに、民主党、自民党大幹部間の同意の下、与党自ら担ぎ上げた総理大臣を引きずり下ろそうと騒がしく、総理交代劇を繰り広げております。現職総理では、役人をまっ

く動かすことが出来ない状態が続いております。被災地復興は、日本復興の大きな機会となるはずです。しかし、被災地では、国の方針が未決のまま、瓦礫の撤去も始まらない地区があります。復興の財

源を増税に頼るか、国債発行でまかなうかは、気鋭の専門家に任せるとしても、早々に結論を出し、復興に着手しなければ、日本に支援の手を伸ばしてくれている他国からそっぽを向けられます。米軍から

らの原発事故処理の申し出を断つたのも現首相です。ここは、野党に大きく期待するところですが、常に論点が、ずれているところが、大変に気になるります。このような有事に、24年度



歯科医療点数改定を22年度2・09%獲得並みに期待は出来ませんが、大久保満男日本歯科医師会会長及び高木幹正日本歯科医師連盟会長は、さらに先を見据えた戦略をめぐらせておられると聞きます。

歯科医療費が、総医療費の7%から二桁のパーセントに戻ることを祈ります。過去には、13%ほどだったはずですが、

さて、葛飾区では、3月11日当日、青木克徳区長の判断により、予想される多くの帰宅難民に備え、区内の全小、中学校の開放を実施し、体育館などに帰宅困難者を受け入れ、乾パンと毛布を提供しました。この迅速な対応は、後に高く評価されました。さらに、区職員を被災地に派遣し、復興支援を実施しています。この体験が、将来の貴重な財産になると思います。

現在、葛飾区政は、行動力のある青木克徳区長と舟坂ちかお区議会議長を中心とする区議会が、強力なスクラムを組んで、「夢と誇り」を持てるふるさと葛飾」の実現に向い邁進しております。

また、葛飾区議会では、自由民主党議員団に、2名の区議が加わり、公明党と多数の11名となり、軌道修正が完了しております。平沢勝栄衆議院議員、樺山卓司都議会議員、倉沢よう次自由民主党議員団幹事長が、太いパイプでつながり、葛飾区は、活気あふれる地区になりつつあります。この体制が、崩れないよう、先生方の強い不変のご助力を賜りますようお願い申し上げます。

会員の先生方とご家族の益々のご繁栄をお祈りし、ご挨拶に代えさせて頂きます。

平成二十三年度

葛飾区歯科医師連盟役員名簿

会 長	加 藤 静 悟
副 会 長	杉 山 征 三
副 会 長	深 瀬 道 法
副 会 長	島 田 雅 章
専 務 理 事	細 谷 正 勝
常 務 理 事	川 本 黄 石
常 務 理 事	長 谷 川 晶 秀
常 務 理 事	泉 伸 吾
常 務 理 事	鎌 田 正 幸
常 務 理 事	足 立 勝 正
理 事	加 藤 想 玄
理 事	篠 塚 和 明
理 事	前 原 俊 幸
理 事	只 野 正 博
理 事	高 木 恒 治
理 事	木 暮 隆 司
理 事	清 信 浩 一
監 事	高 橋 文 夫
監 事	加 藤 秀 之
顧 問	福 田 徳 治
評 議 員	杉 山 征 三
評 議 員	細 谷 正 勝
予 備 評 議 員	長 谷 川 晶 秀
予 備 評 議 員	足 立 勝 正
選 挙 管 理 委 員	秋 葉 和 実
選 挙 管 理 委 員	梅 本 芳 夫
選 挙 管 理 委 員	高 橋 昭 成
選 挙 管 理 委 員	丸 山 裕 司
選 挙 管 理 委 員	関 裕 信

地の塩

「甘美な死骸」とは、3人あるいは4人で行うシュルレアリストの遊びの一つである。参加者のそれぞれが、主語、述語、形容語といった自分の受け持つ語のタイプを決め、それを書いた紙は伏せておき、お互いに協力し合うことができないまま、最後に合わせて全員で一つの文章を作るといふものである。参加者は他の参加者のフレーズがわからない状態にあるため、奇抜な文章や作品が生まれる。その最初の試みから生まれたフレーズが「甘美な・死骸は・新しい・ワインを・飲むだろう」であったことから、この題名がつけられた。

奇抜な発想ながらも「甘美な死骸」が集团的に成功した作品となるのは、遊びの参加者たちの中である種の「類推」が確立される時なのである。シュルレアリストの集团的デッサンは勿論、ジャズやロックのジャムセッションでも多くの「成功」を見ることが出来る。会議においても、ある議題について意見やアイデアを持ち寄った最初の合点では、ある種の「甘美な死骸」が生まれる。

人間は自分の心を打つイメージを多少とも巧みに再現する程度のことしかできない。また、題材や意見を選ぶ際に、あまりにも妥協的すぎる態度を示すものである。そして模倣という狭い概念は、今日まで有効に見える重大な誤解の原因でもある。思考の現状において、外部の世界がますます疑わしい性質をおびて見えつつある時に、このような犠牲的行為に同意しているというのには、何にせよ信じられないことなのである。危機管理、復興、改革、現在叫ばれている問題は勿論のこと、政治、経済、医療などあらゆるテーマに対し、意見が煮詰まるにつれて正しい「類推」は何処かへ消え、結局、模倣や妥協に終わっているのではないだろうか。「成功」の鍵となる最初の発想や意見、すなわち「甘美な死骸」を我々はおもった大切にすべきだと考える。

震災とこれからの日本

葛飾区長 青 木 克 徳



被災地の被害は甚大、都内でも多くの被害が発生していました。

葛飾区の震度は5弱。区役所庁舎も、漏水や壁面に亀裂が入るなどの被害が出ました。

地震発生後、都内の電車はすべてマヒしました。

会社から帰宅する人々が溢れ、混乱することは明白。区政にはスピード感ある対応が求められていました。

午後6時15分、私は、23区の中でも最大規模といえる、区内全小中学校を含む75箇所を臨時避難所として開設し、NHKをはじめ報道機関へ周知を求めました。

その夜、実に千人を超える帰宅難民者が避難所で一夜を過ごし、翌日無事に帰宅されました。

翌12日には、被害状況が次第に明らかになってきました。地震に加えて津波の被害、そして「福島原発」の被害。本区を取り巻く状況は、刻一刻と変化し、迅速な判断を求められることが非常に多くなっていました。

料、簡易トイレ等の救援物資を搬送しました。
歯科医師会の皆様は、いち早く被災地へ医師を派遣してくださいました。
このような皆様方の救援活動は、災害対応を進める私にとって大変心強いことでした。

震災発生から一週間後の3月18日、区は福島県等からの避難者を水元学び交流館で受け入れはじめました。そして、区内各地の町会など、幅広い区民の皆様により、温かい食事の提供を始めとする様々な支援が行われました。

岐阜県飛騨市に対して、飲料水の支援要請をし、飲料水の確保を行いました。
5月1日・2日、私は、葛飾区が復興支援をしている自治体の被災現場を訪問しました。
そこで目にしたのは、想像を絶する災害の爪痕でした。海岸沿いの町並みは跡かたもなく、道路の脇には未だ片づけられないがれきの山。辛うじて残った建物の屋根には自動車が乗り上げていました。

これらを見て改めて感じたこと、それは「事前準備の重要性」です。事前準備の柱として、私は二つを挙げたいと思います。
一つ目は、訓練の充実と体制づくりです。
本区では、毎年十月に総合防災訓練を実施しています。訓練では、警察・消防をはじめ関係機関との連携を確認するとともに、区民の皆様方にも参加していただき、災害発生から実際に避難するまでの訓練を行ってきました。

今年度の総合防災訓練では、東日本大震災の被害状況を教訓にして、通信インフラが途絶した場合の情報伝達や避難所運営などに重点を置いて訓練を行うこととします。
災害時における、現場での判断力や行動力を養うとともに、区職員の意識改革にもつなげてまいります。

また、今回の大震災では、役所も甚大な被害を受けその機能を失いました。災害発生直後は、地域の中の自助・互助による対応、いわゆる「地域力」による対応が約九割といわれています。先日、私も出席した23区の役員区長と東京都知事との会合で、石原知事も、自治町会等の地縁組織との協働の重要性を指摘していました。

大きな災害が発生した場合、行政だけで全て対応することは困難です。また、個人、自治町会だけで対応することもできません。日頃から、行政と関係機関、事業者のみならず区民の皆様と、訓練を始め様々な機会を活用して良好な協働関係を築くことが大きな力になります。
二つめは、災害に強いまちづくりを着実に進めることです。

現在、首都圏では、今後30年以内にマグニチュード7クラスの直下型地震が発生する確率が極めて高いと言われております。その想定では、首都圏全体で約85万棟が全焼、全壊し、本区だけでも、今般の東日本大震災の約二分の一となる4万7千棟の被害が発生すると言われています。この想定される被害を少しでも軽減していくには、地域の方々と連携した防災まちづくりの推進が急務です。

葛歯連盟広報によせて

衆議院議員 平 沢 勝 栄



有「そして「国難」という言葉が何度も使われました。被害のほとんどは地震ではなく津波そして原発によるもので、海外のテレビ映像には津波に流される人が映し出され、その惨状に世界中が息をのみました。

今回の大災害は従来の災害と次の点で異なっています。

第1は地震、津波と原発の複合災害であったこと。
第2はきわめて広範な地域

危機管理上の鉄則として、事故を政権の浮揚に使うことなどは絶対に避けなければなりません。しかし残念ながら、その後の菅首相の対応には明らかに政治的パフォーマンスが随所に見られ残念でなりません。

大震災の翌日に、菅首相が福島原発に乗り込んだのがその例です。現場が事故対応に追われている真つ最中に勉強のため行ったとのことですが、その結果、初動対応に明らかに遅れと混乱が生じました。

また菅首相は今回の災害で20を超える対策本部を立ち上げ内閣参与を次々に任命しました。今や官邸の指揮系統はどうなっているのか良くわかりません。何が起ころうとも最悪の事態を想定して対処するのが危機管理の鉄則です。失敗は許されません。しかし、首相は国会で「全て初めてで……」と言い訳していました。

阪神淡路大震災の際に、時の村山政権は初動対応が遅れましたが、その後は全権限を小里貞利防災担当大臣に譲り、本人は責任だけとる形をとりました。そして政府は被災自治体に「応援職員の費用などは一切心配するな」と約束し、憲法上疑義があるとされた寺院の瓦礫処理についても断行しました。その結果、その後は全てが順調に進みま

した。伊豆大島大噴火の時も後藤田官房長官は各省庁の幹部を集め「今日中に全島民と観光客を島外に避難させよ」「責任は全て俺がとる」「君達頼むよ」の三つだけ言っただけであとは全て役人に任せました。その結果、各省庁はその日の中に全く混乱もなく全島民を島外に避難させるという大事業をやり遂げたのです。

自民党は災害対策について長年の経験や実績がありま

す。しかし自民党だったら少

今回の大災害は、菅政権が献金問題などで追い込まれ退陣寸前といわれていた時に起こりました。

今回の大災害は、菅政権が献金問題などで追い込まれ退陣寸前といわれていた時に起こりました。

今回の大災害は、菅政権が献金問題などで追い込まれ退陣寸前といわれていた時に起こりました。

今回の大災害は、菅政権が献金問題などで追い込まれ退陣寸前といわれていた時に起こりました。

今回の大災害は、菅政権が献金問題などで追い込まれ退陣寸前といわれていた時に起こりました。

今回の大災害は、菅政権が献金問題などで追い込まれ退陣寸前といわれていた時に起こりました。

今回の大災害は、菅政権が献金問題などで追い込まれ退陣寸前といわれていた時に起こりました。

(2面より)
非常規定をドイツやポーランドの憲法のように書き、緊急時の私権の制限などを考えておくべきでしょう。
今回の災害では、外国のメディアは避難民は辛抱強く、混乱もなく、それは驚くべきだと報道していました。そし

て、支援の手は日本全国は勿論、世界中から寄せられました。そうした中で亡くなられた方の身元確認の関係では全国の歯科医師の皆さんが大活躍してくれました。言語に絶する厳しい状況の中で黙々と頑張ってくれた歯科医師の皆さんののおかげで、多くの方の身元が判明しました。このことを国民の皆さんによく知ってもらいたいと思います。同時に心から御礼を申し上げたいと思います。
歯科医師連盟の先生方の引き続きのご支援を心からお願ひ申し上げます。そして頂きます。

おい、

みんな大丈夫かあー!!

ー東北・関東大震災の記 3月15日ー

東京都議会議員 樺山 たかし



活でも、これ程緊迫した本議会は初めてと思われる程、異様な雰囲気での開会となった。

たいへんなことになっている。日を追うごとに被害の実態が大きさを増し、様々なメディアを通して全国民の、いや全世界の人々の目に飛び込んて来る。

地震国に生れ、住む人間として、地震の持つ怖さはある程度理解して、「その時」の対応についても、それなりに反復訓練を続けて来たつもりだったが、11日の大震災は、その予測を遥かに越えるものだった。

11日(金)、都議会定例会最終日、焦点は、石原知事の進退表明と、23年度予算案、なかでも築地市場の豊洲移転

関連経費が、拮抗する与野党勢力のなかで、成立するか否かの2点で、傍聴席にはカメラが林立し、私の長い議員生

活でも、これ程緊迫した本議会は初めてと思われる程、異様な雰囲気での開会となった。
結局、予算案は63対62の一票差で可決され、石原知事も4選にむけて出馬表明。我々にとつては大団円での閉会となつて、ホッとして執務室に戻り、仲間の議員や記者クラブの面々と談笑中に「その時」は突然にやつて来た。
誰かが「地震だ!」と叫んだ瞬間、いつもとは違う揺れ方に私は慄然とした。
ロッカーを押さえる者、イスの下に身を隠す者、「でけえぞ!」を連発する者、そして私はと言うと、今考えれば、最も危険なことだった

私の「あれを見る!」との叫びに、部屋に居る大半の仲間が腰を曲げながらやつて来て声にならない声を上げてウメている。左側を見ると、センチュリーハイアットと隣接する第一生命ビルが、大きく横揺れをして、お互いにつかり合っている様にも見える。
あまりの異様な光景は、その直後からテレビの現地からのLIVEの速報で、「これは現実なのだ」と自らに言い聞かせることとなる。
当日、6時から地元で大きな会合があり(もちろん中止とした)、その後始末の必要のため5時少し前に議会を後にした。しかし、車が全く前に進まない。新宿通りから靖国通り、そして防衛省の前まで2時間。
道路は人で溢れかえつていて、中にはヘルメット姿の若い人々も。普段はわずか10分の距離だ。
やつとこのことで水戸街道に

入ったのが9時過ぎ。ところがやはり、ピクリとも前に進まない。10時半になり私は遂に車を降りた。オーバーを着ていなかったの、コンビニでレインコートとマスクを買

防寒体制を整えた。
そして歩いた。唯々歩いた。荒川にかかる長い長い四つ木橋を渡り、本田広小路を右折して葛飾警察にたどり着いたのが12時半。
携帯が電池切れのため(途中のコンビニでは充電器が全て売り切れ)、状況や情報が全く分からないこともあつて、その意味では警察に立ち寄つたのは正解であつた。
疲れ果ててぐったりしている人。自宅までの徒歩での所要時間を聞いている人。家族の迎えを待っている人。
そこには異次元の体験を共有している人々の、何だかホッとする様な人間空間があつた。

何よりも嬉しかったのは、我が葛飾区が、区内の小中学校を、帰宅困難者のために全ての小中学校を開放して緊急対応をしていることであつた。
あまりの異様な光景は、その直後からテレビの現地からのLIVEの速報で、「これは現実なのだ」と自らに言い聞かせることとなる。
当日、6時から地元で大きな会合があり(もちろん中止とした)、その後始末の必要のため5時少し前に議会を後にした。しかし、車が全く前に進まない。新宿通りから靖国通り、そして防衛省の前まで2時間。
道路は人で溢れかえつていて、中にはヘルメット姿の若い人々も。普段はわずか10分の距離だ。
やつとこのことで水戸街道に

から電話で感謝の意を伝えた。
葛飾署で、多くの人々に親切な対応をしてくれている警察官に謝意を伝え、私は再び元気を取り戻した思いで歩き始めた。午前1時半であつた。
普段、葛飾署のある立石から、我が家(鎌倉4丁目)まで歩くなどということは考えに

中川にかかる高砂橋を渡つて我が家に到着したのは午前2時半。
水戸街道の入り口、向島付近から歩き始めて4時間。何の疲れも覚えず「この歳になつても、俺つてやるな!」と実感した瞬間でもあつた。
私は小学校2年生まで宮城県古川(現在は大崎市)で生れ育つた。
従つて宮城県には多勢の仲間や知人が存在する。大崎市では今でも3千人もの人々が避難生活を強いられている。
申し上げるべき言葉も見当たらない。「みんな無事でいてくれ!」と手を合わせて祈るだけである。そして、東京でやれること何でもやりた

都庁の担当局長や関係者にも、その旨を伝える続ける毎日である。
初めて、平成23年3月11日に発生した東日本大震災で犠牲になられた方々のご冥福を心よりお祈り申し上げるとともに、震災や福島原子力発電所事故により未だに避難所生活を余儀なくされている方々に、心からお見舞いを申し上げます。
葛飾区歯科医師連盟のみなさまには、日頃から区政の各般にわたつてご支援とご協力を賜り、とりわけ口腔衛生の普及啓発をはじめ、本区の歯科保健医療事業の充実と向上に多大なご尽力をいただいておりますことを、本紙面をお借りして厚くお礼を申し上げます。
申すまでもなく、健康であることは、何物にも代え難いことであります。
区民一人ひとりが健やかに、また日々を生きて暮らすことができることは、我々区政に携わる者すべての願ひであり、またその健康を支えるうえで、歯の健康は誠に大切なものであります。
今回の大震災では、避難所生活が長期化する中で疲労や精神的なストレスが溜まつて、口の中が乾く症状の人が多くなり、虫歯菌や歯周病菌が繁殖しやすい状態であるにもかかわらず、歯ブラシがな

かったり、自由に使える水がなかったりして、歯磨きすら満足にできない状況が続いたと聞いています。
また、突然の地震と津波で「入れ歯」を失つた高齢者なども多かったようです。
そのような状況の中、避難所に届けられる弁当はすでに冷たくなつており、「入れ歯」を失くされた方や歯の弱い被災者は、弁当の中の硬いおかずが噛めないために、結局はカップラーメンぐらいしか口にできず、体力が見る見るうちに衰えてしまつたという例も多かったようです。
特に避難生活のはじめの頃は、温かい物を美味しく食べられるといった状況には程遠く、炊き出しに來られたボランティアの方が、温かい食事を提供してくれたときに、初めて生き返つた心地がしたといつた話も聞きました。
現場で活動された歯科医師の方は、「避難所で食べる冷たくて硬い食べ物、あくまで今を生きたためであつて、決して明日につながる食べ物ではない。美味しいと思つて食べることはすべての意欲の根源であり、生きる意欲につながる」と実感されたそうです。
「入れ歯」も生きるための道具であり、噛むことの大切さ、食べる喜びというのは、このような状況だからこそ、なおさら強く感じられるものだと思います。
また、被災地には県外から

震災とこれからの葛飾

葛飾区議会 議長 舟坂 ちかお



も多くの歯科医師のみなさんが支援に駆けつけ、被災者の歯の治療、義歯の補修等をはじめ、身元不明遺体の歯の治療痕や歯型などを手掛かりにして、身元の特定作業を進めていらつしゃることもお聞きしました。
特に今回のような未曾有の災害では、遺体の損傷が激しくて指紋が確認できない場合や、家族全員が被災してDNA鑑定ができない場合なども多く、身元の特定に奮闘される歯科医師のみなさんの所見の重要性や社会的貢献について、今後あらためて高い評価を受けられるものと思ひます。

今回の大震災であらためて実感したことは、区民が安心して安全に暮らすということが如何に大切かということでもあります。
また今回の大震災を教訓として、30年以内に70%の確率で発生すると言われる「首都直下型地震」をしつかりと見据え、津波や液状化現象など地震に伴う複合的な被害も想定したうえで地域防災計画

の見直しが早急に必要と考えております。
この夏には、厳しい電力供給が確実であり、区民の生活や区内企業の経済活動への影響も懸念されますが、このような困難時こそ官民が一体となつて対応することが必要であると思ひます。
私も葛飾区議会といたしましても、安全で安心して暮らせる、災害に強いまちづくりに向けて全力を傾注していくとともに、国・都・区が一丸となつて、復興に向けた取り組みを早急に推進していくことを求めています。
区民の健康維持には、区民一人ひとりが「自らの健康を管理する」意欲が不可欠であり、このような時期だからこそ、なお一層の啓発活動が必要であると思ひます。
どうか、皆様方におかれまして、今後とも「歯の健康」を初めとする衛生行政、さらには広く区民が健康で元気に安心して暮らせるまちづくりに向けて、ご支援とご協力を賜りますことを、お願い申し上げます。
最後になりましたが、葛飾区歯科医師連盟の益々のご発展と、会員のみなさまのご健勝とご多幸を心からご祈念申し上げます。ご挨拶とさせていただきます。

がんばれ宮城県!
がんばれ東北!
がんばろう日本!!



震災対応を考える

葛飾区議会自由民主党議員団 幹事長

倉 沢 よう次



このたびの東日本大震災において、不幸にも犠牲となられた方々に、区議会自由民主党を代表し、衷心から深い哀悼の意を表するものであります。

幸いに、本区においては人的被害はなく、家屋損壊もごく軽微で、区民が生命や財産を失う結果に至らなかったことには、心から安堵いたしております。

しかしながら、発災当日は、鉄道は全面運休となり、幹線道路は大渋滞と徒歩で千葉方面へ帰宅するサラリーマンたちで大混雑することとなり、急遽小中学校を帰宅困難者の臨時の宿泊施設として提供するという、かつてない事態となったことは、ご記憶に新しいことと存じます。

その後は、しばしば鳴り響く緊急地震速報とともに、続く余震の中で多くの区民が不安の日々を重ね、家庭も事業所も節電に努め、さらには放射能の影に怯え、今日を迎えております。

区は、我々区議会と協力し、発災直後から災害対策本部を設置し、被害の把握とともに、学校や保育園から帰宅できない児童・園児の安全確保に努めてきましたが、人的被害や建物被害がほとんどな

い中での交通機関の全面停止による大量の帰宅困難者対策は、やや想定外で、学校避難所は全面開設したものの、職員配置や備蓄品の提供など、混乱の中でのスタートでありました。

今般の震災では、1万5千を超える犠牲者と、9千を超える行方不明者ほか、10万人を超える方々が、長期にわたって各地で避難生活を送られました。

衛生環境の劣悪な避難所や被災地では、歯の健康はともすれば忘れられがちですが、口内の細菌繁殖が、予期せぬ肺炎に至るなど、口腔ケアの重要さとともに、みなさま方の歯科衛生指導の重要さが改めて浮き彫りにされております。

また、不幸にして犠牲となられた方の身元確認には、歯型が大きな役割を果たし、歯科医のみなさまのお力が欠かせないことは、私が今さら申すまでもありません。

このたびの震災では、葛飾区歯科医師会・歯科医師連盟のみなさまにおかれましては、被災地への応援に赴かれた方は少なからぬことと拝察いたしております。

区議会自民党を代表し、そのご尽力に対しまして、心からのお礼を申し上げます。

今般の震災の最大かつ驚愕の出来事は、何と申しましても福島第1原子力発電所の事故であります。

る映像を目の当たりにし、驚き恐れる間もなく金町浄水場水道水の放射能汚染が発覚、その後は医療機関への蒸留水の提供や乳児家庭へのペットボトル水の配布を行うなどの緊急措置を、東京都とも連携し実施したところではあります。

その後は、原発被災地域からの被災者が、本区の水元つどい交流館（旧社教館）に多数、避難来訪されるなど、警戒区域や計画避難区域などの多くの方々が、帰宅の目途の立たぬまま、各地で避難生活を続ける憂慮すべき状況が続いております。

原発事故の問題が、ここまで重大な事態に陥った背景には、現政権の無能さ・無力さがあります。

炉心冷却に全力を挙げねばならぬ時期に菅総理が原発視察に訪れ、その日の午後の与野党会談で「危機的な状況にならない」と表明した直後のあの衝撃的な建屋爆発。

その後は13もの対策本部や会議を乱立させ、震災後に総理自らによって乱増させた内閣官房参与に至っては「その場限りの対応で事態の収束を遅らせた」との抗議辞任や「放射能汚染水の海への放出は米国の要請」発言など、目を覆うばかりであります。

また、これほどの国難を迎えた今にあっても、実現不可能なマニフェストにこだわ

り、一向にバラマキを改めようとしないうちにも、震災対策の遅れを招き、残念でなりません。

総理の「震災復興よりも政権延命優先」の数々の言動に接するとき、東日本大震災という戦後最大の非常時を迎えた今日、我々自由民主党が政権の座にあらず、政府として地に足の着いた実効的な対策を打ち出し得ないことに、情けなさや残念さを感じます。

ともに、国民・区民のみなさまに誠に申し訳なく思うところであります。

今般、葛飾区議会におきましては、我々自由民主党議員団は、2名の議員の新加入を得て、区議会第1党に復帰いたしました。

一昨年の区議選後、歯科医師連盟のみなさま方には、多くのご心配とお叱りを賜りましたが、新しい勢力を得たこの機会に、責任与党として、区民福祉の向上いっそうに努めますとともに、歯科医師会・歯科医師連盟のみなさまと手を携え、地域歯科医療の拡大と歯科医の経営基盤の安定にさらに力を尽くしてまいります。

変わらぬご支援を賜りますことをお願い申し上げますとともに、被災地の1日も早い復興と、歯科医師連盟のみなさま方のご健勝とご繁栄を心からお祈り申し上げます。

東京都歯科医師連盟報告

東京都歯科医師連盟 専務理事

大 谷 修 作



いつも都歯連盟活動にご協力いただき、有難う御座います。

平成23年4月1日より、都歯連盟も新執行部が発足し、新たな活動を開始いたしました。

本年度より、日歯連盟会長に高木幹正先生が就任され、都歯連盟から大曾根正史会長が日歯連盟副会長に、黒田百樹常任理事が日歯連盟理事に就任いたしました。

これにより日歯連盟と都歯連盟との連携が、より密になるのではないかと考えられます。

また、都歯連盟におきましても当区に加藤静悟会長が理事としてご就任され、江東七地区は勿論、葛飾区歯科医師連盟とも太いパイプで結ばれ、私といったしましても今後に期待をいたしております。

現在既に6月中旬を過ぎていくにもかかわらず、依然として東日本大震災の復興にさらに力を尽くしてまいります。

変わらぬご支援を賜りますことをお願い申し上げますとともに、被災地の1日も早い復興と、歯科医師連盟のみなさま方のご健勝とご繁栄を心からお祈り申し上げます。

いては、冷温停止の目途がさっぱり見えずに不安が募るばかりです。

りです。

このような中、都歯連盟は3月に行われました第104回評議員会でご承認を得た、岩手・宮城・福島・茨城の4県歯科医師連盟に対し、お見舞金を振り込ませていただき、それぞれの歯科医師連盟より丁重なお礼状を頂戴いたしました。

また、これとは別に東京都歯科医師会とともに各支部・連盟にお見舞金を募り、同様に被災4県歯科医師連盟にお送りしたことを合わせてご報告いたします。

本年度は大きな国政選挙が予定されておらず、常時活動に専念する年ではあります。が、前述の大震災の対応を巡り、国会では大きな動きがあるような報道がなされていま

す。

都歯連盟では、日歯連盟と協調してこの動きに対する情

報収集、分析、今後の対応について、日々検討をしております。

また、数年前より検討されていいます公益法人化問題は未だに結論が出ておりません。

しかし、歯科医師会が完全に公益法人化すれば国民・都民のための事業を展開することになり、会員に対して目を向けることが出来るようになると思われ

ます。

そこで会員にとって一番身近な組織として連盟があるわけ

です。連盟は、もともと会員の業権確保・経済基盤の安定そして会員擁護を目的としており、まさしく会員のための組織であると言えます。

都歯連盟は、従来から会員の経済を含めた診療環境の改

善を訴えてきました。それらの改善がなされることの結果が、ひいては都民・国民への良質な歯科医療の提供につながるのではないかと日々検討をし、会員のためにどうあるべきかを基本に、活動をしてまいりました。

今までは選挙を主に行う組織であり、社団の事業を後ろから支え活動を行う組織であると思われてきましたが、これも会員のためになる事業を

社団が行い、それを支えるために連盟として活動してきたわけで、単に選挙のための組織であるという認識は見直すべきではないでしょうか。

前述しましたが、区民・都民・国民のために事業を展開し、広く公益性を前面に押し出して活動する社団と違い、会員のためにまた、歯科界のためにどうあるべきなのか、更にその活動が区民・都民・国民にどう利益を生み出すのかを考えた活動する組織こそ、連盟ではないかと考え

ます。

公益性が一般的に唱えられるようになってきた現在だから

からこそ、両者の組織がお互いに連携を保ちながら、それぞれの立場での活動を展開していくことこそ本来の歯科医師会・歯科医師連盟ではないかと思

います。

連盟は今後もこの基本に則って、会員のためにどうあるべきか、そしてその結果として区民・都民・国民に寄与できるのだとの認識に立って活動していきたいと考えております。

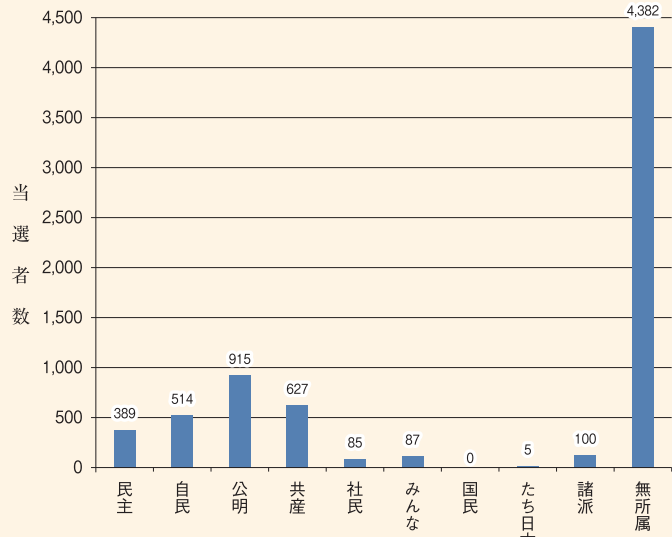
会員の皆様には十分ご理解をいただき、ご協力をお願い申し上げます。

【参考】

4月に行われました統一地方選挙の結果を、『全国の市議選』と『東京都における区議選』の当選者数を、政党別に比較した資料です。

このグラフを見れば一目瞭然ですが、全国では無所属が圧倒的多数を占めています。所謂無党派層といわれるものです。また、東京都においては、やはり自民党が多数を占

全国市議選 政党別当選者数



東京都区議選 政党別当選者数

